

元和元年(1615)の一国一城令以降にもかかわらず、望楼型という天守草創期の形式で建てられたのは、前身となる天守が以前に存在し、その形式を踏襲した可能性が考えられます。

■歴史的背景から

勝家の北庄城は、天正9年(1581)に建設中、天守は九重、石瓦葺き(ルイスフロイス書簡)の記録があり、丸岡城も同時期に造営が進められていたと考えられる

■天守台の調査から

矢穴技法を用いない、自然石を積んだ野面積の石垣 → 天守台は慶長5年以前、天正期まで遡る可能性がある

■年輪年代調査の結果から

1階の床板、2階の床板から16世紀後半の年代も見つかった

■放射性炭素年代調査の結果から

現天守の部材や保存古材の一部には16世紀後半の測定結果も見られる

■絵図の調査から

慶長期に描かれた越前国絵図に3重の天守が描かれている

慶長以前にも天守があった可能性がある

丸岡城天守の意義

丸岡城天守は、福井地震によって倒壊したことが文化財的評価を落としているひとつの要因とも考えられていました。しかし実際は、江戸時代に存在していた天守の部材を多用して修理され、規模や構造、形式も地震前とほとんど同じであることがわかりました。つまり、地震による倒壊と修理を経ても、なお、その価値は何ら変わっていないのです。

これまで丸岡城天守の創建年代については、柴田勝豊による「天正4年説」と、本多成重入城以降の「慶長18年以降説」の2説が唱えられてきましたが、今回の調査を通じて、現存の天守は寛永期に整備されたことがわかりました。そして建てられた当時の姿は柿葺の屋根、懸魚や破風の漆塗など、現在の天守と異なるだけでなく、当時としても特徴的な外観をしていたことが明らかになりました。

このように、現存の丸岡城天守は寛永期に望楼型という当時としては古い様式で建てられ、江戸時代を通じてその構造形式を変化させることなく、現代まで残っている貴重な建物であることがわかりました。

○あとがき○

4年間の調査を通じて、多くのことが明らかになった一方、新たな謎も生まれました。これからも継続的に調査を進め、明らかにしていきたいと考えています。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

令和2年8月 編集・発行

**坂井市教育委員会 文化課
丸岡城国宝化推進室**

〒910-0231
福井県坂井市丸岡町霞町1-41-1
電話: 0776-50-2270 FAX: 0776-50-2553
E-mail: bunka@city.fukui-sakai.lg.jp

知られざる丸岡城

丸岡城天守学術調査成果の概要



平成27年度から始まった丸岡城天守の総合調査。調査は建築史学、歴史学、構造力学、自然科学、考古学など様々な分野の専門家の協力のもと、多角的な検証を行いました。本誌では調査の結果わかったことを紹介します。

坂井市教育委員会 丸岡城国宝化推進室

江戸時代からのかたちをそのまま残している

丸岡城天守は昭和23年の福井地震によって倒壊しました。柱や梁などの主要部材の多くは、地震後の修理でも地震前の部材を再利用しています。部材の刃痕調査などによると江戸時代にまで遡る古い部材を多く使用しています。

昭和15～17年の福井地震前に行われた修理工事の記録と、昭和26～30年に行われた福井地震後の修理工事の記録を比較したところ、規模や建築様式、構造などは地震の前後でほぼ同じであることが分かりました。

これは主要部材とともに規模、建築形式も江戸時代のもので残っているということです。

以上のようなことから、丸岡城天守は江戸時代からのかたちをそのまま残している貴重な建物であることがわかります。



丸岡城天守1階中央の柱 柱や梁など、多くの部材は江戸時代からのものを利用している。

明らかになった「寛永期丸岡城天守」の姿

寛永期に造営された天守は右図のような優美な姿をしていた。



- ①柿葺きの屋根
- ②3階の腰屋根
- ③懸魚と破風板は漆塗り金箔押しの鯨
- ④床下空間の存在

「寛永期丸岡城天守」は、現存の姿と異なるだけでなく、当時に際しても特異な外観だった

■その後の改変

- ①柿葺き⇒石瓦葺：正保期ころには葺き替え（越前丸岡城之図（正保城絵図））
- ②腰屋根⇒廻縁：元禄期ころ（円陵輿地略図）
- ③懸魚・破風の漆塗・鯨の金箔：有馬時代に改変
- ④床下空間：貞享5年（1688）1階大改修時に床下空間が埋められて掘立柱になった？

現在の天守は寛永年間（1624-1643）のもの

■年輪年代調査の測定結果

2階西側破風部屋土戸の板から1620年+αの年代を確認

■放射性炭素年代調査の測定結果

現在の天守の部材や古材の多くは1620年代に収まると判断できる

■酸素同位体比代調査の測定結果

保存されている2・3階通し柱の最も外側の年輪の年代は1626年



現在の天守を構成する部材の多くは1620年代後半以降に伐採された木材

■歴史的な背景から

『重能に至て城池全く成る』（「古今類聚越前国誌」）の記録
寛永元年（1624）に丸岡藩が成立し、初代藩主・本多成重が城の整備を始めた



現在の天守は寛永年間、本多成重の代に整備された

■丸岡城関係年表と天守築城年代想定

| 西暦 | 政権 | 全国の出来事 現存天守建設年代 | 丸岡城 | | | | | | | |
|-----------------|------|--|-----|-------------|--|----------------------------------|---------|-------------------|----------------------------------|--|
| | | | 城主 | 年代 | 歴史（資料・絵図） | 天守台 | 自然科学的調査 | | 建設年代推定 | |
| | | | | | | | 年輪年代 | 放射性炭素年代 | | |
| 1575 | 織田信長 | | 柴田 | 天正4(1576) | 勝豊、丸岡城築城（「柴田勝家始末記」他） （加賀一向一揆との戦い） | | | | | |
| 天正5～8 | | | | | | | | | | |
| 1580 | 豊臣秀吉 | | 青山 | 天正9(1581) | 丸岡城の存在確認（フロイス書簡） → 城の整備は、北庄城と同様に、一向一揆後のこの頃から | 形式から、慶長5年(1600・関ヶ原の合戦)以前の構築とみられる | | | | |
| 天正11(1583) | | | | | | | | | | |
| 1590 | 徳川家康 | 文禄元(1592) 松本城乾小天守 | 今村 | 慶長5(1600) | 城主・今村盛次へ 「越前国絵図」→ 石瓦葺の天守が描かれる | | | 16C後半の材(3階床板、階段) | 16C後半の材(1階棟通り柱) | 加賀一向一揆後に築城開始か。天守台はこの頃に構築、その上に天守が建てられた可能性あり |
| 慶長6(1601) 犬山城天守 | | | | | | | | | | |
| 1600 | 徳川 | 慶長11(1606) 彦根城天守 慶長13(1608) 姫路城天守 慶長16(1611) 松江城天守 | 本多 | 慶長10(1605)頃 | 城主・本多成重へ | | | | 1600～1620+αの材(1階柱・梁、2階柱、2・3階通し柱) | |
| 慶長18(1613) | | | | | | | | | | |
| 1610 | 徳川 | 元和元(1615) 一國一城令 元和元(1615) 松本城天守 | 本多 | 寛永元(1624) | 福井藩から独立し、丸岡藩誕生 → 丸岡城天守造営の契機か | | | 1620年頃の材(1階床板、板戸) | ・酸素同位体比年代調査から1626年+α | 丸岡藩誕生を契機に天守造営を計画、現在の天守が整備される |
| 寛永元(1624) | | | | | | | | | | |
| 1620 | 徳川 | | 本多 | 寛永元(1624) | 福井藩から独立し、丸岡藩誕生 → 丸岡城天守造営の契機か | | | 1620年頃の材(1階床板、板戸) | ・酸素同位体比年代調査から1626年+α | 丸岡藩誕生を契機に天守造営を計画、現在の天守が整備される |
| 寛永元(1624) | | | | | | | | | | |
| 1630 | 徳川 | | 本多 | 寛永元(1624) | 福井藩から独立し、丸岡藩誕生 → 丸岡城天守造営の契機か | | | 1620年頃の材(1階床板、板戸) | ・酸素同位体比年代調査から1626年+α | 丸岡藩誕生を契機に天守造営を計画、現在の天守が整備される |
| 寛永元(1624) | | | | | | | | | | |
| 1640 | 徳川 | 寛永20(1643) 丸龜城天守(～1660) | 本多 | 正保元(1644) | 「正保城絵図」(正保年間) → 石瓦葺、腰屋根付天守が描かれる 「初め居館の類なりしが、重能に至て城池全く成る」(古今類聚越前国誌) | | | | | |
| 正保元(1644) | | | | | | | | | | |